# 編集後記

新学期に入り、あわただしい公務の合間を縫って、この三月の学生たちの卒業論文の整理をしている。このところ卒業論文もワープロによるものが過半となった。

手書き原稿に黒表紙をつけた分厚い論文は、それ自体ずしりとした存在感が感じられていいものだが、これも毎年二十冊以上、塁々と蓄積されるとなると、その保管が悩みの種となる。私は昨年度からワープロ原稿にはフロッピーを添付してもらうこととした。学生のワープロは、それぞれ機種が違うが、今はメーカーの違う機械のファイルを相互に変換できるという便利なソフトがある。これを利用して集中管理することとした。世の中の動きは何しろ早い。

さて本号に渡辺澄夫先生の玉稿を得た。先生の原稿は、仔細の注記まで丹念に書き分けられた手書きの原稿である。相変わらずの強靭な思考力と筆力に驚嘆のほかはない。拙稿の法蓮についての小考は、その先生の玉稿に励まされるような思いでまとめたものである。飯沼賢司氏の力作とあわせて法蓮・八幡小特集の体裁となった。論文掲載の順序はただ時代順でこのようになったことを了とされたい。

（後藤）